

表題 博士学生が異分野交流により地域課題を解決する「信州多聞塾」

信州大学では、博士学生が分野を超えて交流し、地域課題解決に取り組む「信州多聞塾」を実施している。JST事業「次世代高度人材「地域発志士」育成プログラム」において掲げる「博士人材による地域課題解決」を実行する取組である。

博士学生に対する社会の見方として、専門能力は高いが広い視野やコミュニケーション能力に疑問を呈されることがある。プログラムでは、専攻・研究分野・キャンパス・国籍が異なる学生が交流し、さらに自身の研究を社会課題解決に実装する方法を考える取組として「信州多聞塾」を立ち上げた。

異分野の学生との交流や、専門に関わらない地域・社会課題の解決策を考えることを通じて、視点を高くすること、視野を広げる効果がある。

「信州多聞塾」は令和3年度に開始。第2回は世界的な研究者による英語論文講座、第3回はベンチャー起業者によるピッチコンテストを実施。第4回は令和5年9月に「未来を見据えた地域課題解決」をテーマに、長野県飯山市において二泊三日の合宿を実施。



飯山市の空き家を視察して移住・定住を考える

塾生30名が、同市で過疎・産業振興といった課題に取り組む実践者との対話や現場体験等を通して、グループにより課題解決策を検討、発表した。

本学には長野県内で最も多くの博士学生が在籍しており、地域課題に積極的に関わる「信州多聞塾」は独創的な地域貢献の取組である。

地域の実践者からは「博士学生の理解力は高く、素晴らしい提案であった」等の評価をいただいた。博士学生からは「社会課題は様々な要因が連動していることがわかり、広い視野の必要性を認識した」、「異分野の学生との交流により思考の幅が広がった」等の声があり、キャリアパスの拡大にも繋がっている。

参考URL: [次世代高度人材「地域発志士」育成プログラム](#)

